第２回市民活動団体意見交換会

日　時　平成１９年１２月２７日（木）１３時００分～１４時３０分
場　所　市役所２階２０２会議室　　出席者　２３名

事務局）
　前回は、センターの目的やイメージなどについて、資料や説明が不足し、皆さんに誤解を招いたことを最初にお詫びする。今回の案内文書に書いたとおり、本市の団塊世代の比率は、ある経済誌によれば、全道１位。全国でも 10 位といわれており、これから多くの退職者が地域に帰ってくることになる。市では 17 年度より、こうした退職者をはじめとする市民が、その経験や知識を活かし、まちづくりの活動に取り組んでもらうためにさまざまな啓発事業やトライアルプログラム、コミュニティビジネスの推進などに取り組んできた。今回開設するセンターは、公民館やりんくるなどのような、団体の活動場所ではなく、こうした市民が新たに活動を始めるために必要な情報や機会を提供する「市民活動の玄関口」であり、団体にとっても、そこに関わることで相互のネットワークや活動上有益な情報を手に入れられるような情報交流の拠点となることを目指している。そのようなわけで、今日は、このセンターを如何に有益な情報や人が集まる場所とできるか。皆さんにご意見を伺っていきたい。

団体）
　使用する機材を民間所有の納屋に保管しており、生振農協の跡施設などの活用をお願いしたい。
事務局）
　仮称）まちおこしセンターの中では対応出来ないが、別途相談に乗る。
団体）
　センターとトライアルプログラムやいしかり GO－Net などとは、どのように関係があるのか？
事務局）
　GO -NET は民間が運営する石狩市民向けポータルサイトのひとつ。センターは、施設としてのそうした情報の集まる拠点となるように取り進めたい。
団体）
　この施設は、りんくるや公民館といった団体の活動場所ではなく、むしろ、それらに関連した情報の交流拠点という位置づけでイメージしているがそれで良いか。
事務局）
　そのとおりである。市民にとっては、市内のさまざまな市民活動情報が集まる玄関口。団体にとっても、運営上のノウハウや活動するうえで有益な情報（助成金情報など）などを提供できるものにしていきたい。情報拠点として考えている。

団体）
　うちは、退職者のグループだが、その活動の中で、気軽に立ち寄ってくつろげるようなサロン的な事業が出来ないかと考えている。センターも、そうした堅苦しくない雰囲気のものであると良い。
事務局）
　どのようなものがあれば、サロンといった感じになるだろうか？
団体）
　有料でもいいので、コーヒーなども飲めたり、雑談が出来るテーブルがあるなど。イメージとして喫茶店のような感じ。
団体）
　情報収集も義務化にするなど、集まる仕組みをつくらないとダメだと思う。また、その提供の仕方も工夫する必要があり、スタート段階は特に専任の人が一人でやるだけでは限界があるのではないか。
事務局）
　その手法のアイディアを出してほしい。
団体）
　社会教育団体に登録する際、情報を公開するか否かのチェックがあるので、公開している団体に呼びかけをしてもよいと思う。
団体）
　情報を出すことで、会員が増えるなど、その団体にとってもメリットがあるようにしていかないとだめだと思う。
事務局）
　そのように、市民･団体にとって相乗効果を生むのがベストだと考えている。
団体）
　センターに直接行くだけでなく、市内のコミセンなど、団体の活動場所とのネットワークを作り、そこから連絡をしてもリアルタイムで情報を教えてもらえるような体制であると良い。それが生きた情報なのではないか。
団体）
　センターは、ＨＰを持ったりメールなども対応するのか？
事務局）
　そのようにしていきたいと考えている。
団体）
　「学びのスタンプ」など教委の事業があったり、トライアルプログラムを「ひとまちつなぎ石狩」がやっていたり、市役所内部でも施設や事業の所管がいろいろで、行政サイドの情報が必ずしも一元化されていないという印象がある。このような状態でセンターを運営すると、関わる市民や団体のほうも混乱してしまうという懸念があるので、その辺を改善する必要があると思う。

団体）

造るということが前提なら、公民館の一室などを利用して、職員が対応する方式でも良いのではないか。金をかける必要はない。

事務局）

確かに教育委員会・市長部局で似たようなことをやっている部分もある。もちろん内部のコンセンサスは出来ているが、教委は生涯学習の観点でやっており、市長部局では、もう少し広く協働、いわゆる市民のいろいろな力を合わせてまちづくりをやっていくという観点で進めており、その中に生涯学習や社会教育といったところも含めて取り組んでいる。その中で整理しなければならない部分もあるが、その一方で市民にとってはこうしたチャンネルが多い方が良いというところもある。もちろん効率性やコストを考えてやらなければならないが、現在は、教委や市長部局が競い合ってより良いものを提供していくということも必要なのではないかと考えている。

また、公民館にこういう機能を持たせてはということだが、社会教育・生涯学習のみなら、公民館でも良いが、もっと広い分野も包含するとなると、将来的には可能かもしれないが、現状では難しい。

団体）

もしできるのなら、指定管理者などの方式を取らなくても、最低限の施設と機能を与えてくれて、使い方や情報の収集・提供などの運営は、使う側がみんなで考える運営委員会的な方法で行うことは出来ないか。

事務局）

スペースをどう使うかということだけならそれでも良いかもしれないが、ここでは啓発講座や情報発信などのソフト事業も想定している。運営委員会となるとその辺はだれがやることになるだろうか？

団体）

やりたいと思っている人はたくさんいるのではないか。

団体）

それは、そうとは限らない。簡単にはいかないし、むしろ嫌がる人も多いと思う。

団体）

催し物のチケット販売などは、団体の方でも苦慮することが多い。市や教委との共催や後援などがある事業については、センターでもチケット販売などができるようになると良い。

事務局）

大会やイベントの申し込みも、個人の携帯電話で対応しているようなケースも多く、これらの窓口を担ってほしいというニーズもあるようだ。

団体）

センターは、情報発信以外にまちおこし事業はしないのか。どういう事業が必要かというイメージを具体的に持っているわけではないが、一人暮らしのご老人でも気軽に立ち寄れて、市民活動のほか、介護のことなど、知りたいことがなんでも判るような場所であるのが良いと思う。

事務局）
　町のことは何でもわかるような場所であれたらよいと思うが、最初からそれを求めるのは難しい。先ほどの運営委員会の方式もそうだが、今回ご案内した団体だけでも 120 を超えており、そのどこがメンバーに入るのかということも現段階では整理できるものではない。まずは、基本的機能を持ったセンターを動かしていくことで、そうした団体のネットワークを作っていき、みんなが集まれる場所になることでたくさんの情報が行き交い、その機能が広がっていくことを目指したい。

団体）
　札幌の「ちえりあ」のようなイメージ。そこにいけばなんでもわかる。生涯学習のことでもボランティアのことでも。そんなセンターになるといいと思う。
事務局）
　スタートのイメージ（市民活動の玄関口）は、ちょっと違うが、将来的にはそのような感じになってくれると良いと思う。

事務局）
　センターの名前はどのようにしたら良いか？
団体）
　「いっぺ、かだれや」などのような方言もあることから、「かだれや館」などとしてはどうか？
団体）
　名前は公募しても良いのではないか？
事務局）
　公募も良いと思うが、施設の条例も制定しなければならないので、正式な名称は必要となる。そもそも、まちおこしセンターが良くないと思う方はどれくらいいるか？
　ほぼ全員

事務局）
　では、どのような名称が良いと思うか？
団体）
・生涯学習情報センター
・生涯学習ばかりではないので、それはどうか？
・市民活動センター
・情報センター
・市民活動情報センター
事務局）
　了解した。今の意見も踏まえて正式な名称を決め、愛称などは公募することも考えていきたい。そのほか、必要な備品などについて意見はないか。

団体）
・文化協会や社会福祉協議会などにも印刷機等は置いてあるが、会員外が使えない。あるいは、割高になるなどの状況もある。
・プロジェクターなどは、借りられること自体が知られていない。

事務局）
なかなか、こういう機会もないので、活動に関することならなんでも良いので、市に対する要望や意見などがあれば聞かせてほしい。

団体）
・センターの話ではないが、北コミの包丁などは切れが悪い。今回のセンター開設などのように、特別なときだけでなく、できれば、他の施設の備品修繕などの要望を、予算策定時期に合わせて、毎年定期的に聞いてもらいたい。
・パソコンなどを一定台数配置された施設があると良い。緑苑台小にも使える部屋があるが、ソフトの数も少なく、バージョンも古い。また、セキュリティの関係もあり、使用時間が夕方までで使いずらい。最近は何かの教本などにもDVDが着いているが、それらを見ることが出来る環境が整っていない。
・公民館の場所が未だにわからない人もいる。また、わかっても入り口がどこかがわからないということもある。出来れば、道路側に大きく石狩市公民館という看板を出してもらいたい。

事務局）
本日は貴重な時間を割いていただき、活発なご意見を出していただきありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ最終的な方向性を出していきたいと思う。オープン以降も、使いやすい施設となるよう、また意見をいただきながら改善を続けていきたいと思っているので、そのときはまたよろしくお願いしたい。